

「明」の文字が浮かび上がるよう苗を植える児童(名張市神屋で)



「農楽アート」田植えに汗

名張市神屋、市立国津小学校の全児童約40人が12日、学校近くの水田で、苗の成長とともに大きな文字が浮かび上がる田植えに挑戦した。米作りに芸術性を加えた「農楽アート」。今年は「明」の文字で、明るい国津小のイメージを表現しようと、5、6年の児童が選んだ。

水田は縦約60m、横約20m。「明」の文字の輪郭をテープで囲い、この部分を除いて苗を植えると、6月には青々した苗に、収穫前には黄金色の稲穂の中に文字がくっきりと見えるように

なる。

この日は、高学年の児童が下級生に田植えのやり方を教え、泥だらけになって苗を植えていった。

6年の柿坂龍之介君(11)は

来月には「明」の字

「毎年浮かび上がった文字を見ると、『田植えを頑張ったなあ』と思います。今年もうまくいってほしい」と話していた。

収穫した米は11月の学校行事「国津っ子フェスティバル」でおにぎりにして味わう。

名張・国津小全児童